

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム すずらん (1号館)		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年4月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員のサービスの質向上を図る為、内部勉強会を定期的に行い、地域包括支援センターの職員や、近隣の薬局の薬剤師等から協力を得ている。  
 ・ほとんどの入居者様は、2週間に1度、協力医療機関である医師の往診を受けており、事業所の看護師が中心となって、医師との連携を図り、指示や助言をいただき、入居者様の安心にも繋がっている。  
 ・家庭的な雰囲気大切に、食事面では、メニューをその日に決め入居者様と協働して作っている。また、同グループ会社の特定入居施設の栄養士にメニューの評価をしていただき、栄養バランス等にも配慮している。個々の嗜好や、状態に応じ臨機応変に対応している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197100027&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197100027&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年2月22日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内の高齢化に伴い、隣接するグループホームの増設という形で平成21年に2ユニットで開設した。市にあるグループホームは当法人の運営する事業所のみとなっており、市との協力関係を構築している。また、協力医の定期的な往診と24時間対応が可能で看護師が常勤しており、利用者の身体状況を的確に把握し医師につなげることで早期対応が図れることは、利用者、家族にとって心強い体制である。施設長、管理者はケアの質を向上させるため職員の育成に力を入れ、内外の研修を積極的に受講させている。また、看護師の実習を受け入れ、事業所の機能を活かす取り組みをしている。利用者は広い共有空間で趣味の編み物をしたり、新聞を読むなど穏やかに過ごしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に理念を掲示し、職員が理念を共有している。会議等でも理念に基づいたケアを行うよう、話し合っている。	利用者が穏やかに過ごせることを意識した理念を掲げ、職員の名札や休憩室に掲示し、常に確認できるようにしている。職員採用時に理念について説明すると共に、全体会議の中で認識の共有を図りながらケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方が、施設を見学に来たり、施設の行事に町内の方を招待している。日常でも散歩の際に挨拶を交わし、交流が増えるよう努めている。	地域住民とは散歩時に挨拶を交し、町内会のイベントや清掃活動に利用者と一緒に参加したり、事業所の七夕祭りに地域住民を招待するなど相互交流に努めている。以前保健センターによる健康体操も事業所内で行っていたが、今後地域で行う予定なので参加を考慮中である。毎年、看護学生の実習を受け入れ事業所の機能活用と職員の意識向上につなげている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の防火訓練に地域の方々に来ていただき、グループホームの現状や今後の課題など説明した。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、現在の入居状況や、起こっている問題点等報告し、話し合い、意見を聞いている。	運営推進会議は隣接する同一法人内の事業所と合同で開催している。事業所ごとの家族代表、町内会長、行政関係者、管理者等が参加し、各事業所の現状や行事報告、利用者の現況報告を行い、委員の意見を運営に反映するよう取り組んでいるが、幅広い意見集約までには至っていない。	利用者家族と職員、地域住民と共に作り上げる事業所として幅広い意見吸い上げ等会議の活性化が求められる。複数家族を始め、職員、消防団員等、様々な参加者を募り多岐に亘り話し合いを行い、運営に活かすことを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、施設長、副施設長、管理者は、連絡・報告等を行い、相互に協力関係を築いている。	運営法人は市内で唯一グループホームを持ち、市の担当者とは日常的に協力できる関係にある。認定調査や申請時の機会、ケースワーカーの来訪時に報告や相談、アドバイスを得るなど協力関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていない。入居者が外に出る時は、さりげなく見守りし、一緒に散歩をしたりと、本人の意志を尊重し、身体拘束をしない支援に努めている。	管理者は、身体拘束の研修を受け、内部の伝達講習を行い職員との共有化を図っている、事故やヒヤリハットを区別なく報告し、リスクマネジメントについて全体会議で話し合っている。権利擁護に関する研修も全職員が受けている。薬剤師や地域包括支援センター職員、看護師を講師に内部研修を行い、ケアの質の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の中で、管理者と職員は、虐待の危機がないか確認し、話し合う機会を設け、虐待の防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者様がいるので、全体会議の中で勉強会を行い、知識を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設見学もしていただき、グループホームの特性について説明している。不安や疑問等も聞き、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、家族からの要望がないか問いかけている。また、言いづらいことが表わせるよう、玄関に意見箱を設置している。入居者様からの要望等があれば、すぐに話し合い、運営に反映させている。	一ヶ月に一度は家族が来訪するので、その機会に意見や要望を聞くよう心がけている。課題であった便りを2ヶ月ごとに作成し、行事案内と共に家族に送付し、半数ほどの家族が行事に参加している。外部の相談窓口も契約書の中に盛り込む予定となっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議や、毎日の申し送りの中で職員の意見や提案を聴く機会が設けられ、運営に反映させている。	会議で職員の意見やアイデアを聞き、また、日常の中で気がついたことはその場で施設長や管理者に話すことが多い。ユニットごとの課題は、ユニット職員全体で検討し改善につなげている。個別的なことは個人面談で聞くよう心がけている。職員の希望を取り入れたシフトを組み、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や意欲等を管理者は、代表者へ報告している。また、代表者も直接面談し、不安等の聞き取りをし、把握している。勤務希望等出来るだけ叶え意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部勉強会や外部研修に参加し、知識や介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への人事交流や、行事や研修の参加を通して情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の情報を、職員が把握し、安心して支援を受けられるよう努めている。また、入居者との会話の中で本人の思いを理解し、関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの苦悩や体験にも耳を傾け、家族の思いを理解し、家族との関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に得た情報や、家族、本人の気持ちを理解し、必要な支援を見極める為に連絡ノートを活用し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には入居者様の持っている知識や知恵を料理や、コミュニケーションの場で教えてもらうなど信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た際、入居者様の日常の様子を伝えたり一緒に外出・外泊できるよう、ご家族にも協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しくしていた友人や知人の来訪があったり、馴染みの美容室や店へ行けるよう、家族にも協力を得ながら支援している。	利用者は地元の人が多く、それまで住んでいた近所の友人が来訪したり、馴染みの美容室を訪れるなど関係が維持できるよう支援している。思い出の場所への訪問は、家族と協力しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士は積極的にコミュニケーションを取っている。孤立しがちな入居者様は職員が間に入るなどして会話できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者等が、転居先の関係者に必要な情報を提供し、本人に最善のサービスが受けられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者自らが、希望や意向を話して下さる。また、普段の会話の中から意向の把握に努めている。	日々の関りの中で一人ひとりの声に耳を傾け、不平や不安を受け止めるよう努めており、その思いを職員全体で共有し、利用者が安心して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや、本人との会話、家族からの情報などから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、連絡ノートを活用し、職員同士が情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、モニタリング表や、センター方式の様式に課題を記入したり、モニタリング会議の中で、計画作成者は職員に意見やアイデアを聞き取りし、計画を作成している。	利用者の状況を把握しながら基本的には6ヶ月ごとに介護計画を作成し、変化が見られるときは随時見直しを図っている。職員が日々の課題をモニタリング表に記入したものを基礎資料として、職員の意見を盛り込んだ介護計画の原案を家族に提案し同意を得て介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の24時間シートを記録に活用している。日々の変化や気づきは連絡ノート等を利用し、ケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じて、理容室、美容室の利用を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体操のボランティアに定期的に訪問していただき、入居者と一緒に体操を行った。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、協力医の往診を受けている。また、今までのかかりつけの病院など、希望に応じて受診している。	2週間に一度協力医による往診があり、ほぼ全員の利用者が受診している。事業所の看護師が中心となり利用者の身体状況や生活の様子を医師に伝え適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期受診は家族対応が主であるが、困難な場合は事業所が支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化や、本人の訴え時等、看護師に連絡・相談し指示を仰いでいる。看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書にて情報提供を行っている。入院後にも病院関係者と連携を図り、リハビリに関する依頼や、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合の事業所の方針を説明している。実際に重度化した場合、家族等と話し合い、希望を聞きながら今後の方向性を決めている。	重度化した場合の対応について契約時に説明して同意を得ている。全職員が救命講習を受け緊急時対応について会議で確認しているが、事業所としての指針の作成までには至っていない。	年齢の高い利用者もおり、予期せぬ対応の必要性を考慮しながら事業所の限界を踏まえて重度化や終末期の対応指針を作成し、利用者、家族、医師、職員など関係者全体で段階的な対応が望まれる。看取りについての研修が予定されているので、職員全体で共有しスキルアップすることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、全員救命講習を受講している。また、全体会議等で緊急時の対応など周知させている。救急マニュアルをいつも見れる場所に設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消火・避難訓練を行い、近隣の方にも参加していただいている。また、防災マニュアルをいつも見れる場所に設置している。	消防署の協力の下、年2回避難訓練をしている。一度は地域住民も参加しているが、夜間を想定した訓練は今後の検討事項となっている。また、災害時の備蓄品等も未整備である。	火災時のみならず自然災害時も視野に夜間想定訓練の実施と、災害時の幅広い協力体制、避難場所の家族への周知、連絡方法などの取り決めの検討が望まれる。また市の協力体制も確認しながら防寒対策、飲料水、食料品等の備蓄品の確保を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関しては、本人の分かるジェスチャーを利用し、プライバシーを損ねない対応に心掛けている。	利用者のプライドを損わないよう名前は名字で呼ぶようにしている。排泄の確認もほかの人に分からない方法で、一人ひとりの羞恥心に配慮した関りをしている。また、可能な限り同性介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や、食事等時にはこちら側が選択肢を提示し、自己決定ができるような声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体操など、こちら側の押し付けではなく、本人の体調や気分で自己決定してもらっている。また、希望があった場合にもカラオケやゲーム等の余暇活動を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身の好みの衣服が着られるよう、声掛けしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望があれば、出来る限り希望に沿ってメニューを決定したり、調理・味付けを一緒に行っている。	週2度食材を購入し職員が献立を考えている。夏場には利用者と職員と一緒に育てた新鮮な野菜も食卓に上り、利用者の楽しみとなっている。利用者が下膳や後片付けをするなど、一人ひとりのできることを大切に支援している。年1度法人内の栄養士が栄養バランスを確認している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や、水分の摂取量を記録で把握している。食事は、前日などのメニューを見て、バランスを考え、決定している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に義歯は洗浄剤を使用している。毎食後、口腔ケアが行えるよう、できる力に応じて支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布の下着に取り替える。一人ひとりに合わせた排泄パターンへの支援等個々の能力に応じた支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの時間に合わせ声かけ誘導をしている。日中は布製の下着を着用し、自立を促す支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や、ブルーンの提供、また、食事時にヨーグルトや食物繊維の入った食材を利用し、便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の羞恥心や、恐怖心、負担感に配慮し、入居者に無理強いをすることなく、入浴を楽しんでもらえるよう、支援している。	午後の時間帯であるが毎日入浴できる体制になっている。週2回程度入浴される人が多いが、時には夜間のシャワー浴も利用者の体調を把握しながら希望に沿うよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も、体力や体調に応じて、短時間の休息を促している。夜間、良眠できるよう、日中の活動にも配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで薬の情報を共有し、職員は一人ひとりの薬の理解に努めている。疑問や不安がある場合は、看護師に相談し、ケアに活かしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が生き生きと過ごせるよう、気分転換や楽しみ事の支援等、介護計画に沿って支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や散歩等、冬期間以外は、戸外に出掛けられるよう声掛けしたり、中庭で過ごせるよう、テントを張ったり、椅子を置くなど工夫をした。	冬場の外出は難しくなるが、夏場には日常的な散歩と季節に合わせた花見やりんご狩りなど、毎月のように出かける機会を作っている。中庭の菜園畑で作業をしたり、畑の側に張られたテントの中で昼食を楽しむなど、戸外で過ごす機会を多く設け、変化のある生活を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力やできる力に応じて依頼された物を買物するなどの支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話の支援をしている。また、お正月にご家族へ年賀状を出すなどの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、掲示物で季節を感じてもらえるよう工夫している。また、フロアや、各居室は温度・湿度に配慮し、不快な環境にならないよう努めている。	広い玄関ホールを中心に左右に1ユニットずつの造作となっている。ユニット内は対面式キッチンと居間に連なる広い食堂が中央にあり、周りが各居室となっている。全体的にゆったりと広い空間となっており、居間の大きな窓越しに中庭が望め季節を感じながら過ごすことができる。冬場の湿度確保のために様々な対策を取り、快適に過ごす工夫をしている。大きなソファや畳のスペースがあり、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が会話したり、テレビを観たりと思い思いに過ごせるよう、環境作りをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人の馴染みの家具や道具を持ち込んでいただいている。また、居室が本人の落ち着ける環境になるよう、写真や仏壇等も持ち込んでいる。	利用者の使い慣れた家具やベッド、馴染みのソファや調度品を置き、壁には大きな賞状や家族写真を飾っている。それまでの生活の延長となるような居室となっており、安心して過せる環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、個々の身体状態によって手すりや杖、シルバーカー、車椅子を使用している。普段から、危険な箇所がないか確認している。		